

■メッセージ2■ ～「各教科」としての取組～

小・中の9か年を見通し、各学年で積み残すことなく確実に指導しきることが重要です！

国語編

1 課題として取り組んでいきたいこと

(1) 文の構成や表現の技法について理解していること

⇒ この項目については、ぜひとも1学期に指導したいこととして、次の項目で指導の具体を紹介しました。



・小学校 A問題 2 - 1 【45.6%】

平成25年度（関連する問題）小国 A 3 - 1
当時の正答率
【岐阜県】33.7% 【全国】36.5%
・文の定義を理解する。

2 1
ア ぼくの イ 妹の ウ 誕生日は、 エ 五月二日だ。
ア 降っていた イ 雨が、 ウ 急に エ やんだ。

2 次の一と二の問いに答えましょう。
一 1と2の文の主語として適切なものを選び、その記号を書きましょう。

1の文は、「何が(は)～どうした」という構成。「何が」に当たる言葉を主語と捉える。
2の文は、「何が(が)～何だ」という構成。「何が」に当たる言葉を主語と捉える。

正答率が50%を下回った問題。文の中における主語を正しく捉える指導が求められる。

【文章の一部】の中には、いくつかの文があります。それぞれの文のはじめの五文字を丸で囲みましょう。なお、読点(、)も字数にふくみます。

【文章の一部】
次の【文章の一部】は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任せられることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

・中学校 A問題 3 — 【59.7%】

線部①「どてをぐるっとまわって、どどん正門をはいって来ると」とありますが、ここでの表現の工夫として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 擬態語が用いられている。
2 倒置法が用いられている。
3 体言止めが用いられている。
4 直喩が用いられている。

正答率が低かった問題。表現技法について正しく理解する指導が求められる。

引用されている部分には、「ぐるっと」「どどん」という擬態語が用いられていることを捉える。

平成24年度（関連する問題）
中国 A 3 二
当時の正答率

【岐阜県】37.3%
【全国】40.4%
・ 比喩という言葉と結び付て、表現の仕方を理解する。

平成26年度（関連する問題）
中国 B 1 一
当時の正答率

【岐阜県】63.7%
【全国】65.3%
・ 表現の技法について理解する。

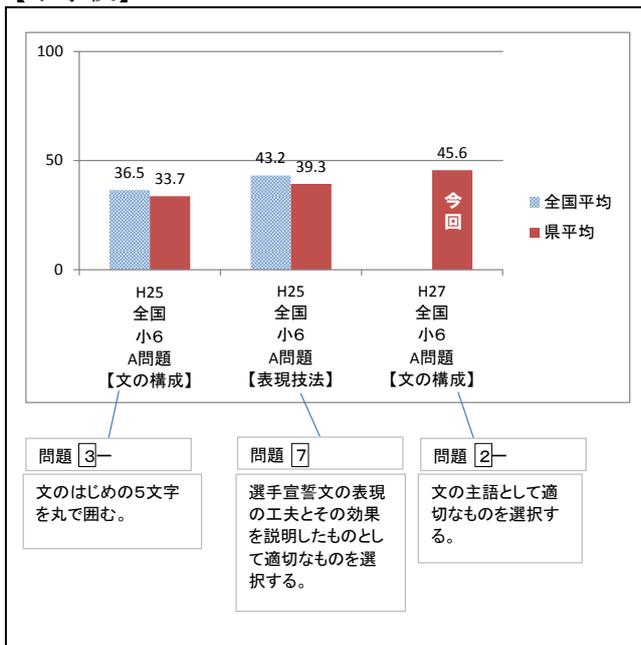
【早川さんのノート】の
に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 反復法
2 対句法
3 擬人法
4 倒置法

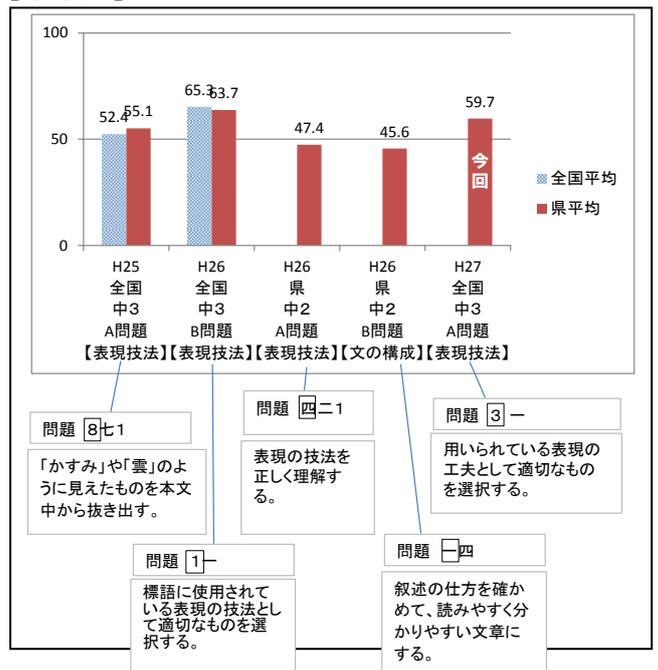
線部「この村の月は、まるでよく熟した夏ミカンだ」に使われている表現の技法を何と言いますか。三字以内で書きなさい。（漢字、ひらがなのどちらでもよい。）

※過去の調査における類似問題の正答率

【小学校】



【中学校】

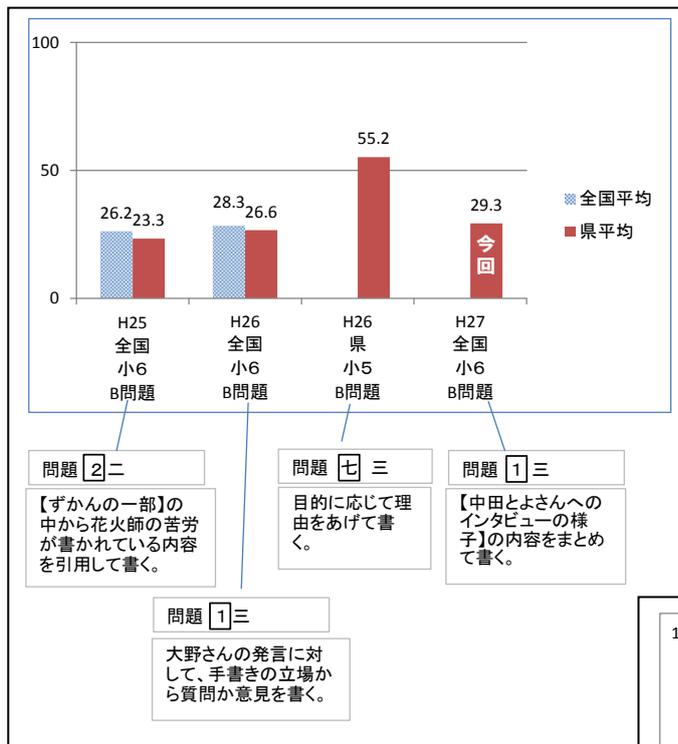


2 その他課題として捉えられること

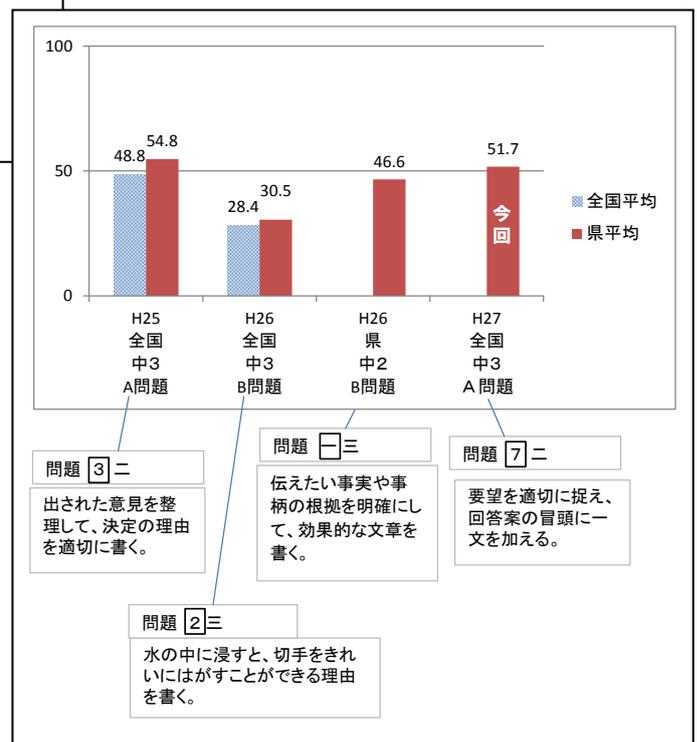
(1) 目的や意図に応じ、内容を整理しながら文章を書くこと

- ・ 小学校 B問題 1 三 【29.3%】
- ・ 中学校 A問題 7 二 【51.7%】

【小学校】



【中学校】

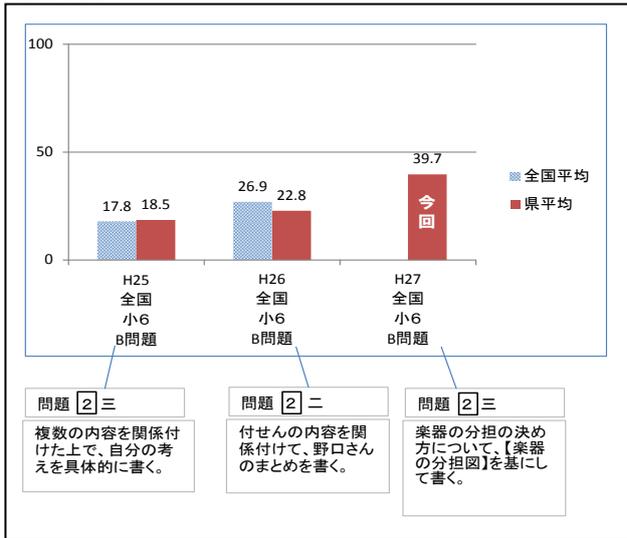


(2) 複数の資料と比べたり、文章と図とを関係付けたりしながら、自分の考えを書くこと

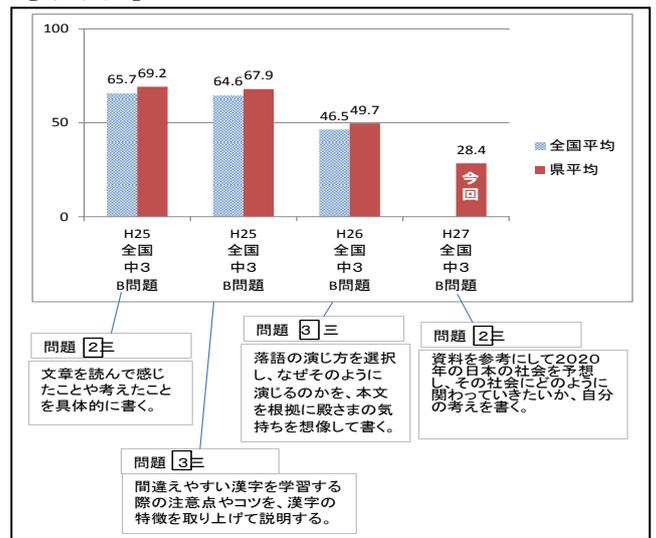
- ・ 小学校 B問題 **2** 三 【39.7%】
- ・ 中学校 B問題 **2** 三 【28.4%】

※ 過去の調査における類似問題の正答率

【小学校】



【中学校】

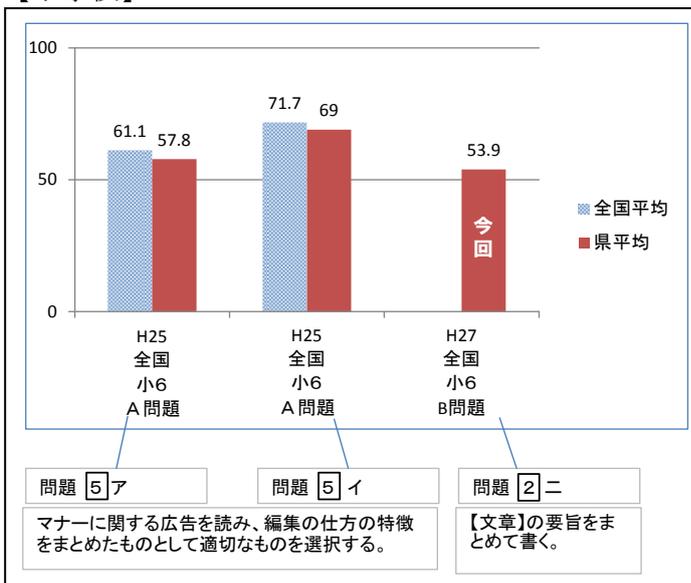


(3) 目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えること

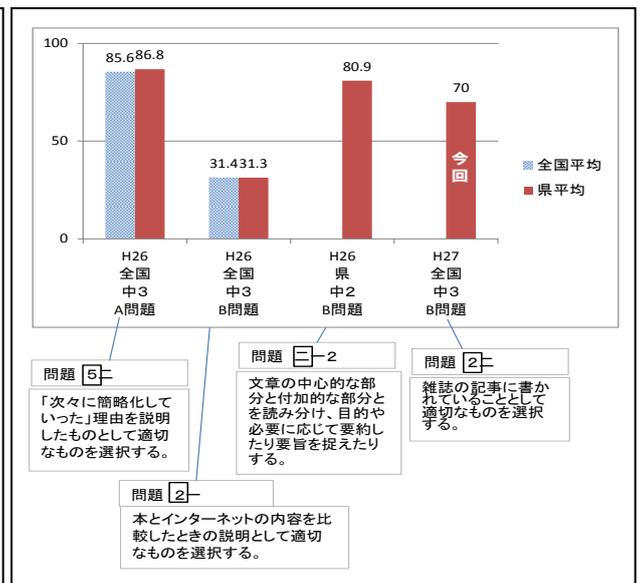
- ・ 小学校 B問題 **2** 二 【53.9%】
- ・ 中学校 B問題 **2** 二 【70.0%】

※ 過去の調査における類似問題の正答率

【小学校】



【中学校】



3 1学期、指導できること（国語）

小・中学校を
通じて大切に
したい指導

(1) 「文の構成や表現の技法について理解すること」を指導する場合

⇒全ての領域の指導を通して、文の構成を確かめることができるようにしましょう。
また、表現技法の効果を実感させ、使うことができるようにしましょう。

《小学校第1学年》

教材名：ぶんをつくろう

挿絵を見て、「が、。」という文型の文を書くこと。

教材名：くちばし

問い「これは、なんのーでしょう。」と答え「これは、ーのーです。」という文を書くこと。

教材名：これはなんでしょう

「これは、なんでしょう」クイズで、「これは」の答えを想像し探すこと。

←指導内容の学年内・学年間の系統性を踏まえたとき、このことは確実に身に付けさせたいこと

《小学校第2学年》

教材名：かんさつ名人になろう

教材名：お手紙

主語と述語を知り、主語と述語のつながりが大切であることを理解すること。

《小学校第3学年》

【コラム】きちんとつたえるために

聞き手に伝わるように言葉を選んで話すこと。

教材名：修飾語

修飾・被修飾の関係などについて理解すること。

《小学校第5学年》

教材名：天気を予想する

「どのような何は」など一文が長いとき、語と語のまとまりに注意して読むこと。

【コラム】文の組み立て

主語と述語の関係に着目して文の意味をとらえること。

教材名：分かりやすく伝える。

主語と述語を対応させて書くこと。



《小学校第2学年》

教材名：スイミー

「ーような」「ーみたいな」というたとえをあらわすことばを使って文を書くこと。

《小学校第3学年》

教材名：モチモチの木

「まるでー」「ーみたいだ」「ーようだ」などの言葉を使ってたとえと、様子を分かりやすく表すことができることを理解すること。

《小学校第4学年》

教材名：初雪の降る日

くりかえしの表現やくわしくする表現（修飾語）などに気を付けて読むこと。

教材名：日常を十七音で

以下の表現の工夫をして俳句を書くこと。
・言葉を選ぶ ・たとえを使う など

《小学校第6学年》

教材名：やまなし

以下の表現等について自分の考えをまとめること。
・「ーのよう」などを使った又は使っていないたとえ
・言葉のひびきによって様子を表す言葉

次々頁[中学校]につながる



次々頁[中学校]につながる

《小学校第2学年》

教材名：かんさつ名人になろう

本時のねらい

「何が」をはっきりさせて書くと、生きもののようすがよくわかることに気付き、「何が、」をはっきりさせた文を書くことができる。

本時の展開略案（2 / 5）

＜単元を貫く課題＞

自分のお気に入りのいきものを1年生にわかりやすく伝えられるかんさつ名人になろう。

1 本時の課題をつかむ。

- 教師の提示したモデル文（「何が」が抜けている文）から、どうしたら、ようすがよくわかる文になるかを話し合う。

5センチくらいのびた	しろく なつた	五センチのメビウス	とりのレタスにわたりました。
わたった	絵	→	

「何が」をはっきり書いて、ようすをわかりやすく伝えるかんさつ名人になろう。

2 かんさつ文を書く。

- 「どうなっている」のは「何が」なのかを明らかにして文を書く。
- 書けない児童は、実物や絵、教師との対話を手がかりに「何が」を明らかにする。
T：「どんなことを書きたい？」
T：「どこのこと？」
- 「何が」が書いてあることのよさを考える。

3 ペアで本時の学習課題を確かめる。

- 「何が」が書けているか確かめ合う。
- 「何が」が書いてあると何がよく分かるのかを伝え合う。

「体が、ぐんぐんとのびました。」「体が」が書いてあると、かたつむりの体がのびるようすがよく分かったよ。

4 本時の学習を振り返る。

○実態を見届ける(見極める)

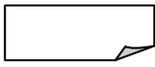
- 既習の内容の定着を見届ける。
 - 様々な視点から観察できるか（色、形、大きさ、高さ、太さ、重さ、さわった感じ、におい、数）。
 - 知らせたいものの絵と見つけたことを短い言葉で書けるか。
 - 観察文を書く単元の学習であることが分かり、かんさつ名人になろうという意欲がもてているか。
- *前時までに書いたかんさつカードや生活科等の様子から実態を見届ける。
- 授業のねらいを見極める。
 - 「何が」を明らかにして書くことで、様子や動きがよく分かる文になることを実感させることをねらいとする。

○学習状況を見届ける

- 「何が」が書けているかについて、児童が書いているプリントから見届ける。
 - 「何が」は「どうなっている。」と合っているか。

○定着状況を見届ける

- 「何が」が書けているか、また、「何が」が書いてあることのよさを感じているかについて見届ける。
 - 定着が十分でないと思われるペアを中心に下記の点を中心に机間指導を行う。
 - 「何が」は「どうなっている。」と合っているかを一緒に確認する。
 - 「何が」が書いてあることのよさについて問いかけ、必要に応じて話型を示し、が書いてあると、がよく分かることを理解させる。
- *今後の生活科の学習等において、「何が」が書けているかを見届ける。

〔  ←指導内容の学年内・学年間の系統性を踏まえたとき、
このことは確実に身に付けさせたいこと 〕

《中学校第1学年》



前々頁[小学校]からつながる

教材名：「野原はうたう」

以下の表現技法の効果を意識して音読すること。

- ・擬人法…おれは げんきだぜ
- ・反復…あいたくて あいたくて
- ・対句…おれはかまきり（1. 2連）
- ・擬態語…どきどき、わくわく

教材名：「さまざまな表現技法」

以下の表現技法の種類と効果を理解すること。

- ・体言止め、倒置、反復、対句、省略、直喩、隠喩、擬人法、擬声語、擬態語

《中学校第2学年》

教材名：「新しい短歌のために」「短歌十二首」

以下の表現技法を参考に自分の短歌を作ること。

- ・擬人法、体言止め…深々と人間笑ふ声すなり谷一面の白百合の花
- ・対句…君には一日我には一生 ・省略…日は西に
- ・隠喩…白き霧ながるる夜の草の園に自転車はほそきつばさ濡れたり
- ・擬声語、反復法…土鳩はどどつぽどどつぽ茨咲く野はねむたくてどどつぽどどつぽ
- ・擬態語…ぞろぞろ

次頁：指導案へ 

《中学校第3学年》

教材名：「俳句の可能性」「俳句十六句」

以下の表現技法に着目し、俳句を味わうこと。

- ・体言止め…水のおと
- ・反復…分け入っても分け入っても
- ・直喩…日と月のごとく
- ・隠喩…金剛の露
- ・擬人法…戦争が～みた
- ・擬声語…ぽぽと
- ・擬態語…ゆさゆさと



6月～7月に指導する単元を取り上げています！

《中学校第2学年》

教材名：「新しい短歌のために」 「短歌十二首」

本時のねらい

伝えたいことに適した表現技法の用い方とその効果を明らかにすることで、自分の伝えたい情景や感動を豊かに表現した短歌を作ることができる。

本時の展開略案（5／6）

1 課題を把握する。

モデルを比較して表現技法を使うよさを確認する。

表現技法を効果的に使い、情景や感動を豊かに表現する短歌を作ろう。

2 個人で追究する。

・書くことにつまずく生徒は、マス目や短歌の一部を掲載した用紙に書く。

深々と人間笑ふ
 【擬人法】



3 仲間のよさを知り、個人で追究する。

・教師の提示した仲間の下書き用紙のよさを知り、自分の下書きを見直す。
 ・短歌の見直しだけでなく、短歌の説明部分についても見直しを行う。

4 グループ交流を行う。

・交流の視点（含む表現技法の工夫）を明確にしたチェック表を活用し、仲間の短歌のよさを見付ける。

5 本時の学習のまとめを書く。

（前略）「鏡の海に」と「倒置」にすることで、私が感動した情景が強調されて伝わるし、「鏡の海」と隠喩を使うことで太陽を反射して光輝く海の美しさをより表現できたと思います。

○実態を見届ける(見極める)

○既習の内容の定着を見届ける。

・10種類の表現技法（体現止め、倒置、反復、対句、省略、直喩、隠喩、擬人法、擬音語、擬態語）と効果が言える。

※2分前学習やプレテスト等から、表現技法の基礎的内容の定着を見届ける。

○授業のねらいを見極める。

・表現技法の効果を理解して取り入れることで、豊かな短歌を作れることをねらいとする。

○学習状況を見届ける

○短歌に取り入れた表現技法について、次の学習状況を見届ける。

・選択した表現技法の効果と短歌で表現したい情景や感動が合っているか。

・表現技法の工夫によって、短歌のリズムは乱れていないか。

・複数の表現技法を取り入れたり、他の表現技法と置き換えたりすることで、より豊かな表現にならないか。

・交流の視点に基づいて、仲間の短歌の表現技法の工夫やその効果について評価しているか。

○定着状況を見届ける

○効果的な表現技法を取り入れて、豊かな短歌を作ることができたかを見届ける。

・自分の短歌に取り入れた表現技法の理由を、その効果と伝えたい情景や感動と関係付けて書けたか。

※色彩表現や五感、平仮名の使用など、表現技法以外の工夫も価値付ける。